

転向に対する現代日本の視線は厳しいものを感じる。有名人の発言は過去のその人の発言や SNS 上の言葉と比較され、何か変わった点があると厳しく追及される。何年も前の発言が発掘され現在の主張に関係なく糾弾されることもある。また、違法とまではいかない反モラル的な一度の言動で政治家や芸能人が立場を失うといったことのエスカレートも感じる。こうした流行は決して健全だとは思わない。ただ、一貫した思想に憧れを抱き勝手に失望してしまうその心は私の中にも確かに存在する。今一度自分を含めた人間とはどういった生き物なのか分子生物学的でなくもっと情動的に理解すべきタイミングが訪れ、その上で理解できないこともあると受け入れる時なのではないか。

今作品の中で最も一貫した思想を持っていたのは主人公美沙の兄であろう。世界中どこでも実行はともかく思想は自由な中、布団の上で彼なりの思想を持ち続けた。最期まで自分の慕った山田先生と妹の思想も自分と同じ左翼だと信じ逝ったであろう。主人公が戦後の山田先生の講演を聞き兄に訴えるシーンで徹男によりも綺麗な振袖を兄さんに着せてあげたいという自分がいた。かわいそうな兄さんという表現に異論はないが、兄さんのように強い思想を持って死んでいきたいと思ってしまう。兄さんが田舎で戦争を感じ戦後の平和を求める日本人をどう受け止めどんな言葉を発信し続けるのかを見たかった。しかしきっと実際の人物では強い思想が固まるまで周りから打たれ自身でも崩し、大きな辺縁の揺れる思想の“核”が強くと定まった思想となるのが精一杯のそれも希少な思想なのではないかと思われる。

山田先生は特殊な登場人物だろうか。この世界を眺めた時そこら中に山田先生は存在していると思った。揺れ動き、すぐ変わることもさえあるものに人生を懸け大声で主張し、主張の左右や大小に関わらず性愛に溺れる時間がある。しかも真面目な面と汚い面は制御しようと思わなければ簡単にひっくり返り同時に顕在化させることさえ可能だ。主人公は山田先生と不倫相手に人間を見たとき同時に自分にも人間を見出したと思われる。汚さも恥も何も持っている自分の中にしっかりとミサオも存在しているよと母に胸を張ってもらいたい。山田先生のような人間がたくさんいるのではなく自分を含めほぼ全員が山田先生と同じ人間だと知って剣を握っているように見えた。山田先生は生きる中で転向、転々向を経験したがそれを殊更に隠そうとはしていない。人間が生活を送るうえで必要なこともあると受け入れたうえで現在の主張を聞いてほしいというこれも真つすぐさなのかもしれない。その一方で不倫に関しては明らかに隠している。人間は光と闇の二面性を持つとぼんやりと思っていたが、この作品を通じてさらにそれぞれ見せるものと隠すものに大きく分けた四面性を持つのではないかと思った。

見せる光の例：現在の主張、

隠す光の例：不倫相手への看病、

見せる闇の例：転向の過去、

隠す闇の例：不倫相手との性行動

鑑賞した人によっては別の項目への分類をする者もいるだろうが、この四つのどれかには各行動や感情をなんとなくでも分類できるとしてもらえるのではなかろうか。表裏のない人と高評価な人の中には見せる闇の使い方が上手な人も含まれるのだろう。

昭和までの偉人に関してしっかりと調べると無限に裏切りや不貞行為、不法行為が確認できる。これからの有名人や友人からもたくさん確認ができるかと思う。しかしそうしたものは人間の極々一部に過ぎないこと、自分にも様々な要素が存在することをしっかり理解してこれからの社会生活に臨みたい。

主人公が恋の話だと言うからには主人公の恋についても触れざるを得ない。さて彼女は何に恋していたのだろう。徹男に恋心を抱いていたとして彼の何に惹かれたのであろう。彼女の多感な時期に大きな影響を与えたのが兄とその思想であることは間違いがない。それと同じ思想を抱き彼女と同じ時間を過ごした徹男が素敵だったのは本当だろう。ここで想像の域を出ないが思想の力を確認したい。もしも徹男が戦時中に思想をゆっくりでなくガラリと変えていたらどうだろう。例えば急に動植物と一体となるために山籠もりをするといった脈絡のない言動をとっても彼女がついていく可能性は十分にあったと個人的には思う。思想は人を惹きつけるが人間の中で絶対的なものである必要はないのだ。主人公が明日以降も人間社会を生き、その中でまた愛を見つけその先に新しい物語を作っていくって欲しいと思う。

最後に舞台上たった一人で”元役者がストリップショウで演じるという演技”という入れ子構造の様な複雑な役をされた田口さんについて僭越ながら非常に大きな賛辞を贈りたい。冒頭のストリップショウの場面と山田先生の不倫相手の場面はどちらも性を感じさせどちらも同じ人間だというテーマの上で演じる必要があった。その共通点はしっかり感じさせたうえで明らかに別人がいて驚いた。動きや声のトーンもメリハリがあって実際以上に舞台が広く感じられた。非常に有意義で鑑賞後も色々と考えさせられる良い作品だった。迷ったらいつでも戻ってこようと思う作品に出会えて幸せだ。